

◆日向地区の正月神事 【板の上の儀】

日向地区には、正月元旦の早朝に執り行われる「板の上の儀」または「キリゾメ」と呼ばれる大量祈願を祝う神事があります。神事では祝部（ほうり）と呼ばれる神主役の孫か親戚の子どもが袴姿の正装をつけ、下座で一、二度真魚包丁（まなぼうちょう）で切る所作をし、三度目に鯖を三つに切り、「大漁、大漁、大漁」と叫んで左手に持つ真魚箸（まなばし）で切身を下に落とします。「キリゾメ」と呼ばれるように、この地域では神事が終わるまでは家庭でも刃物を使うことは禁じられております。

この大量祈願の縁起物の肴として参会者に配られるのが「塩熟ぶり」です。前一年間の報恩感謝・新年の無病息災・豊漁安全を祈願して作り捧げた塩ブリには神威のパワーが宿るとされ、それを家族みんなで分かち合うという意味があります。

